

教育プログラムの名称 : 児童教育学
授与する学位の名称 : 学士（教育学）

【教育目標】

山形大学及び地域教育文化学部の教育目標を踏まえ、児童教育コース（教育学）では、確かな学習指導・生徒指導の力と地域ぐるみで子どもの成長を支えるネットワークづくりに関わる幅広い知識・技能を分野横断的に教授して、地域の人々とともに、チーム学校の一員として地域の教育を支え、課題の解決に取り組む実践的な人材の育成を目的としています。

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

山形大学及び地域教育文化学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、児童教育コースの各プログラムでは基盤共通教育及び学部の専門教育を通じて、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と社会性

- （１） 教育に対する使命感と情熱、問題意識を持ち、積極的に学び続けることができる。
- （２） 教師の責務の重大さに対する自覚に基づき、高い倫理観と責任感を伴った行動ができる。
- （３） 多様な意見を引き出しながら目的の共有を図り、取りまとめるファシリテーターとして地域の教育課題の解決に取り組むことができる。

2. 幅広い教養と汎用的技能

- （１） 学校教育及び学校と地域の連携についての基本的知識がある。
- （２） 教科間連携、幼小中高連携、インクルーシブ教育を意識した指導力がある。
- （３） グローバルな課題とのつながりにおいて地域課題を捉えた教材開発力を身に付けている。
- （４） 子どもの成長と学校教育を支える様々な人々や組織との連携を図るためのコミュニケーション能力がある。

3. 専門分野の知識と技能

- （１） 国や地域の教育政策の動向に基づき、地域の教育を支えるために必要な専門的知識や技能を身に付けている。
- （２） 地域の教育を支えるために必要な専門的知識を基盤とし、さらに「チーム学校の一員としての教員」に必要とされる知識や技能を活用しながら教育課題の解決に取り組むことができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学及び地域教育文化学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿っ

て、児童教育コースでは、学生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1. 教育課程の編成・実施等

- (1) 基盤共通教育においては、1年次を中心に、「導入科目」、「基幹科目」、「教養科目」、「共通科目」をバランスよく履修し、広い視野・教養を得る。また、「共通科目」では、3年一貫教育としてコミュニケーション・スキル1（英語）を履修し、英語活用能力の向上を促す。
- (2) 学部専門教育においては、専門教育科目を、「中心科目」、「基礎科目」、「専門科目」、「発展科目」の4つのカテゴリーに分類し、体系的・段階的に学ぶことができるように配置する。
- (3) 「中心科目」は、学部共通科目として位置づけ、地域貢献・地域創生を実践するための基本となる科目群と、専門教育で学んでいる知識・技能を地域課題の解決を目指して総合的に活用し企画・運営・実行していく実践演習群の「フィールドプロジェクト」とで編成する。
- (4) 基盤共通科目・専門教育科目の一部を「自由選択科目」として配置する。
- (5) 「児童教育コース」に3つのプログラムを配置する。

○小学校教育プログラム：小学校教育のスペシャリストの養成。小一種免許状（必須）、中・高一種免許状（国語、社会、数学、理科、英語。高校社会は地歴）、幼一種免許状及び特別支援一種免許状が取得可。

○チャレンジプログラム：教職大学院進学を前提にした6年一貫教育。小一種免許状（必須）。

○特別教育プログラム：小学校教育プログラムの学修に加えて山形県の教育課題に関わる実践的な少人数学習を行うことにより「しなやかに」そだつ・そだてる、地域と「ゆたかに」つなぐ・つながる山形県小学校教員を養成。小一種免許状（必須）。

2. 教育方法

- (1) 基礎的かつ包括的な知識を習得する科目群と実践的かつ基礎技術を習得する科目群とを相互補完的に履修させ、知の実践力の育成を促す。
- (2) 主体的な課題発見・解決能力を培うために、PBL型授業を学年進行に伴って拡充する。
- (3) 人間性及び社会性の涵養を促進するために、協働による参加型・対話型授業を初年次から展開する。

3. 教育評価

- (1) 学生自身による到達度の検証と自主的・自律的改善を可能にするような具体的な評価基準を策定し、学習成果を評価する。
- (2) 地域教育の課題解決のために実践力を総合的に活用し、企画・運営・実行する主体性・自律性を評価する。